

平成 28 年度長野市健康増進・食育推進審議会（第 2 回）概要

日 時 平成 28 年 8 月 8 日（月）午後 1 時 30 分～2 時 50 分

場 所 長野市保健所 会議室 A B

出席者 上條委員 北川原委員 黒岩委員 小泉委員 若林委員 佐藤委員
重倉委員 清水委員 鈴木委員 谷委員 玉井委員 玉木委員 中村委員
花岡委員 宮澤委員 村澤委員 柳澤委員 山口委員

1 開 会

2 あいさつ

3 委員委嘱

4 会長及び副会長選出 会長：中村正行

副会長：村澤初子

5 会長あいさつ

6 議 事

(1) 次期長野市健康増進計画・食育推進計画の素案（案）について

資料 1

7 その他

(1) 第 3 回長野市健康増進・食育推進審議会

・と き 平成 28 年 9 月 21 日（水）13 時 30 分～15 時 30 分

・と ころ 長野市保健所 2 階会議室 B

・議 題 次期長野市健康増進計画・食育推進計画の素案について 他

8 閉 会

9 議事における意見等

(委員資料提供)

「平成 28 年度 保健・医療・福祉に関する業務検討会の体系図」（上越市）

評判のよかった資料。ビッグデータ（介護保険・医療データ等）をうまく活用したもの。長野市も参考にできるのでは。

(会長)

ビッグデータについて、行政が提供を進め、利用していくということか。

(委員)

厚労省は、個人情報だけ抜いて結果だけ提供している。提供され、使えるものはできるだけ活用する。

(事務局)

ビッグデータについては既に一部活用している。国保の健診結果、医療費のレセプト、介護保険の提供。いわゆる KDB と言われるもの。

国保連合会から国保課へデータ送付され、本課もそのデータを見させてもらっている。介護度が高い方は医療費が高くなる等分析し、今回の計画にも反映させている。ただ、もっと細かく分析を進めて健康づくりを進めていかなければならないと考えている。

(委員)

スケジュールについて。

「歯・口腔の健康」の項目でもう少し網羅してもらいたい点があるので、持ち帰って検討して再度提出してもよろしいか。

(事務局)

結構です。お盆明け、まとまりしだいをお願いします。

(委員)

がんの分野における市の取組み項目で、「がん検診を受診しやすい体制の整備」とあるが、どういうものか。

(事務局)

例えば、休日検診等受診しやすい日程を組む。受診率を上げるための体制の整備と読み替えてもらっても良い。

(委員)

これまでもこうした取組みだったが、相変わらず受診率は上がっていかない。となれば受診の義務付けも検討すべきではないか。

(事務局)

人間ドックには胃がん・肺がん・大腸がん検診も必須項目として入っていると認識している。

(委員)

人間ドックは全ての市民が受けるわけではない。健康診断の義務的な項目として、入れるのはどうか。

(事務局)

企業や事業所で行われる健康診断もある。その中でどこまで義務付けができるか何とも言えない。

(会長)

義務付けできたとしても、費用の面や検査の処理能力といった課題が残る。

(委員)

個人負担を減らすにはやはり市の負担を増やすしかない。ひとつの検討事項として認識してもらいたい。

(事務局)

現在、国の補助金で乳・子宮がん検診は節目の方に無料クーポン券を配布している。個別の案内を出し、未受診の方へ再勧奨をしている。そうすると受診率が向上した。た

だ、これを他の検診にもととなるとやはり財政的に厳しい。「コール・リコール」の効果は実証済みなので、検討する余地はあると考える。できるだけお金をかけない効果的な方法を検討していく必要がある。

(委員)

人間ドックは毎年受けている。集団健診について、市民は関心を持っている。大腸がん検診についてもいれたらどうか。

(事務局)

人間ドックと市が行う検診は概念が違う。市が行うものは税金を投入するので死亡率の減少が明らかといえるものである必要がある。最近だと胃がん検診に胃カメラが推奨されている。ただ、医療機関や人員の問題、医療的リスクもある。医師会等と協議して、どのように導入していくかが課題となっている。

肺がん検診だと、9月からヘリカルCTを導入予定で、より精度の高い検診が可能となる。

(委員)

治療より予防に予算が活かされることを期待する。